

Janis 化粧鏡台

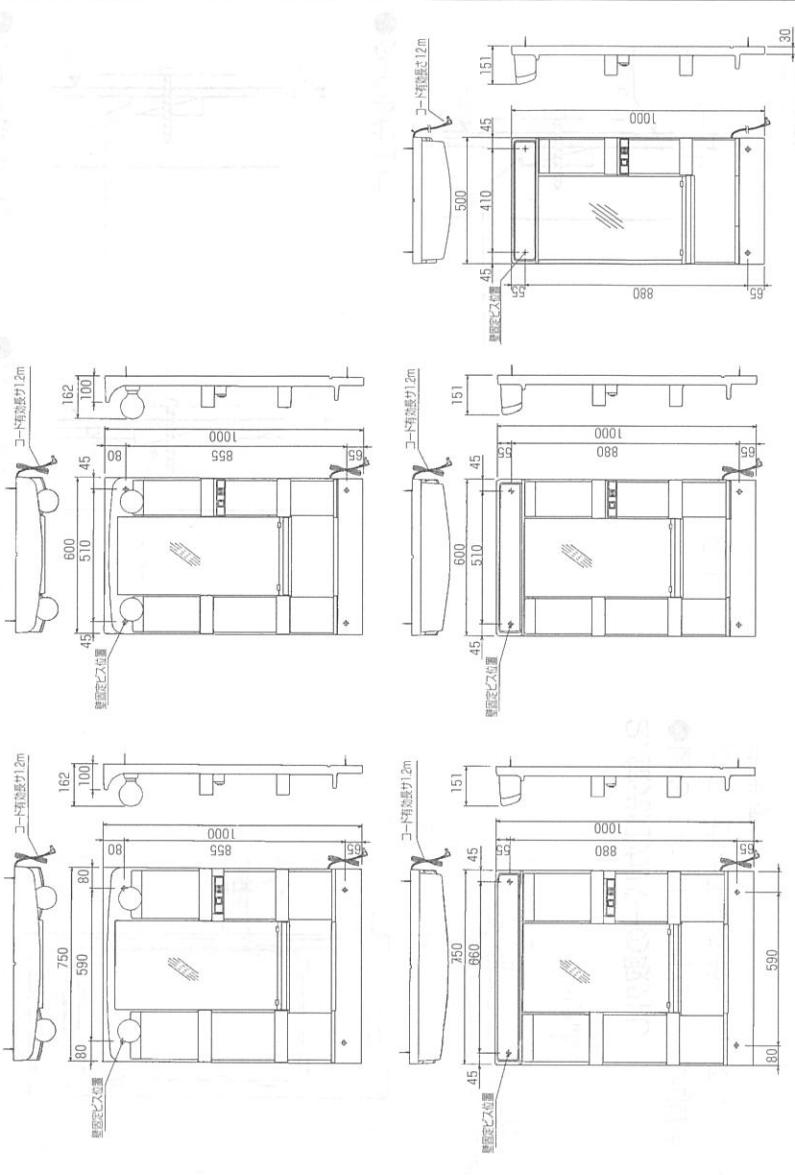
施工説明書

LUM501K LUM601K LUM751K
LUM601KH LUM751KH
LUM601AH LUM751AH

施工される前に

- 施工に際しては、必ずこの施工説明書に従い正しく施工してください。
- ※この施工説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で故障を生じた場合は、商品の保証を致しかねますので十分ご注意ください。
- 施工段階での欠陥工事は、施工店様に対して賠償責任が問われる場合がありますことを十分にご認識いただき、お客様が安全で快適にご使用できるようご協力ください。
- 付属部品の内容と数量が合っていることを確認してください。

寸法図



付属部品

化粧鏡台	LUM501K	LUM601K(H)	LUM751K(H)	LUM601AH	LUM751AH
歯ブラシ立て	1 個	—	2 個(40W、直徑 95mm)	—	—
白熱球	—	1 個	—	—	—
照明カバー	—	—	—	—	—
壁固定ねじ	—	—	—	4 本	—
化粧キャップ	—	—	—	2 個	—
棚トレイ	2 個	—	—	4 個	—
施工説明書・取扱説明書	各 1 部	—	—	—	—

安全のために必ずお守りください

- ここでは施工に際して守らないと人身事故や、家財の損害に結びつく注意事項を挙げています。
- 施工前にこの項目をよくお読みいただき、正しく施工してください。

用語および記号の説明

警告

- 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」
- 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」
- 「注意しない！」（上記の「警告」、「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）

警告

- 「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）
- 「分解してはいけません！」
- 「指示通りにしない！」（一般的な行動指示記号です。）

注意

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。
- ※発火したり、思わぬケガをすることがあります。
- ストーブやヒーター等、熱を発生するもの近くに設置しないでください。
- ※変色や変形、火災を起こす恐れがあります。

注意

- 浴室内の高温多湿場所へは、設置しないでください。
- ※漏電や感電の恐れがあります。
- 電源は必ず専用のコンセントからお取りください。また、コード類を束ねたまま、使用しないでください。
- ※発熱や発火の恐れがあります。

△ 注意

- 施工の際コードは必ず取出口から出してください。
- ※コードを本体と壁にかみ込ませてしまふと発熱や発火の恐れがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持つたずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。
- ※感電やショートして発火することがあります。
- この説明書に記載されている以外の壁仕様(ALC 壁等)の場合には化粧鏡台の取付けをしないでください。
- 化粧鏡台の取付強度が保てず落下する恐れがあります。必ず壁の施工のやり直しを行ってください。
- 化粧鏡台取付壁面の不陸は 5mm/2m をこえる場合は施工しないでください。
- ※鏡がひすんだり割れたりする恐れがあります。
- 直射日光が当たる場合は必ずカーテン等でさえぎつてください。またスポット照明や殺菌灯を直接当てないでください。
- 化粧鏡台取付壁面の不陸が 5mm/2m をこえる場合は施工しないでください。
- 直射日光が当たる場合は必ずカーテン等でさえぎつてください。またスポット照明や殺菌灯を直接当てないでください。
- 酸性、アルカリ性および塩素系の洗剤類・ベンジン、シンナー、ラッカーアルコール等の溶剤や油類を使用して、化粧鏡台を拭かないでください。
- 変色や変形の恐れがあります。(溶剤がつきまと跡が残ることがあります。)

2. 壁面工事の確認

[壁材、下地材の確認]

- 化粧鏡台の取付け可能な壁面は裏面図 1、2 に示す。
- (1)乾式壁 3 種
- (2)湿式壁 2 種 の以上 5 種類の壁面のみです。
- 補強木、仕上げ材の厚みの確認
- 化粧鏡台の取付けには、乾式壁の場合、壁面に補強木(幅 90mm × 厚み 30mm 以上)が指定の位置(寸法図参照)に必ず必要です。あらかじめ建築施工の際には、補強木を設けてください。直接、壁の仕上材に化粧鏡台の取付けはしないでください。
- 補強木の柱や間柱への取付部位(ねじ等)は、化粧鏡台の固定強度(乾式壁の図を参照)と同等以上になるように、種類、数を選定してください。
- 乾式壁の場合は、補強木手前の仕上げ材は取付けを補強木に届かせるため必ずトルタルの厚みで 12.5mm 以下のものを用いてください。
- 湿式壁の場合は、モルタル、タイルの仕上げはトルタルの厚みで 20mm 以下としてください。また、壁本体がコンクリートブロックの場合は、中空部をモルタル詰めしてください。
- 化粧鏡台取付壁面の不陸は 5mm/2m 以下であることを確認してください。
- 化粧鏡台本体を壁に当て、壁とのすき間が 5mm 以下であることを確認してください。



△ 注意

- この説明書に記載されている以外の壁仕様(ALC 壁等)の場合は、化粧鏡台の取付けを行ってください。
- 化粧鏡台の取付け壁面の不陸が 5mm/2m をこえる場合は施工しないでください。
- ※鏡がひすんだり割れたりする恐れがあります。

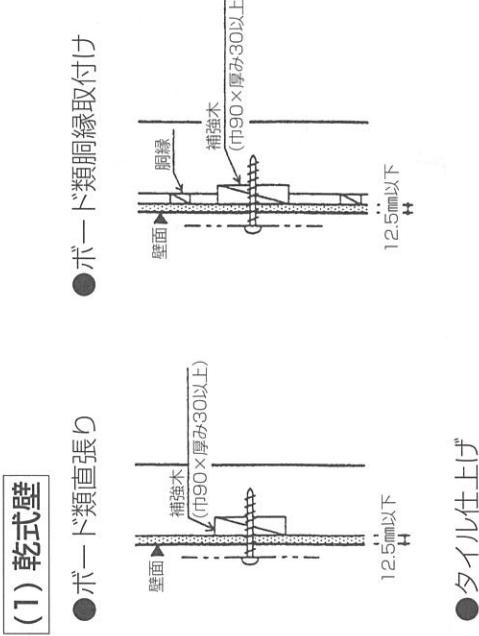
施工前の確認

1. 電源の確認

- 電源コンセントは AC100V をお使いください。電源は必ず電気設備基準、内線規定に準じた配線でブレーカー(110V、15 A)の設置された 100V 用コンセントからお取りください。
- コンセントを新しく設置する場合(配線工事は電気工事店にご依頼ください)、電源コードの長さは 1.0m ですので、電源コードの届く、床面より高くて水のかからない位置に設置してください。

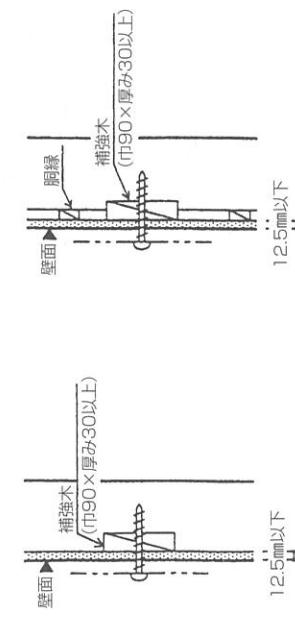
お願い

- 化粧鏡台取付け壁面の不陸が 5mm/2m をこえる場合は施工しないでください。
- ※鏡がひすんだり割れたりする恐れがあります。

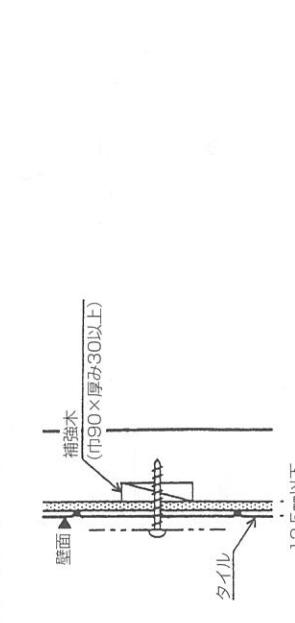


(1) 干式壁

- ボード類直張り

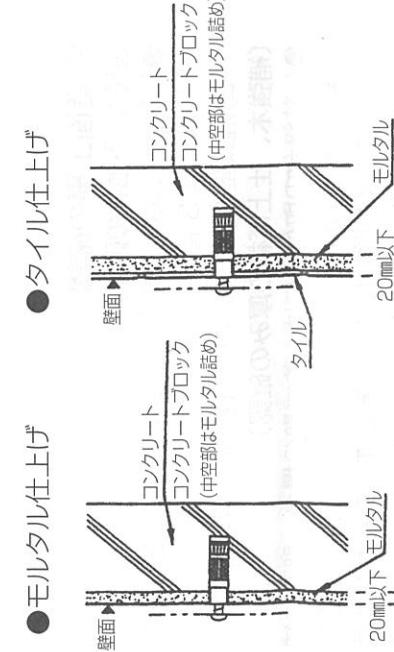


- タイヤリ仕上げ



(2) 湿式壁

- モルタル仕上げ



※壁本体がコンクリートブロックの場合は、中空部をモルタル詰めしてください。

施工方法

■化粧鏡台の取付け

- 乾式壁の場合は付属のねじをご使用ください。
- 湿式壁の場合には、別途手配のAYボルト NT1208S60をご使用ください。

1. コードの取出し

⚠ 注意

- 施工の際、コードは必ずコード取出口から出してください。
- コードを本体と壁にかみ込ませてしまうと発熱や発火の恐れがあります。

コードを取り出す側(電源コンセント側)のコード切り欠き部からコードを取り出します。
※コード取り出し口は左・右・上の3ヶ所あります。
左から取り出す場合…B、Cのツメにコードを止めます。
右から取り出す場合…Aのツメにコードを止めます。
上から取り出す場合…鏡横の立ち面の間を通して、コードを取り出してください。

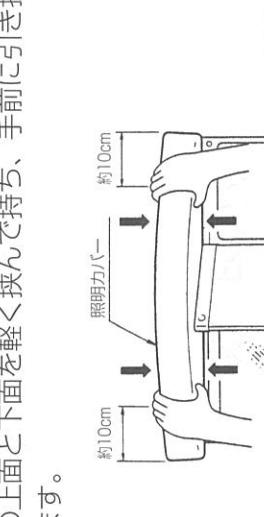


図 1

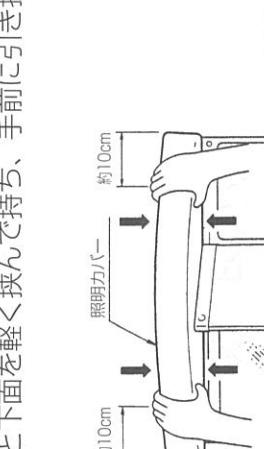


図 2

- 図 3 のように照明カバーの両端から10cm位の上面と下面を軽く挟んで持ち、手前に引き抜きます。

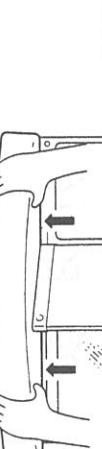


図 3

- 洗面化粧台の立ち上がり部が水平であることを確認してください。水平がでていない場合は化粧鏡台も水平に設置できません。また床面から立ち上がり部までの高さを確認してください。
- 化粧鏡台は洗面器立ち上がり部に、水平にすき間のないようセットします。(はめこみがきちんとされています。)

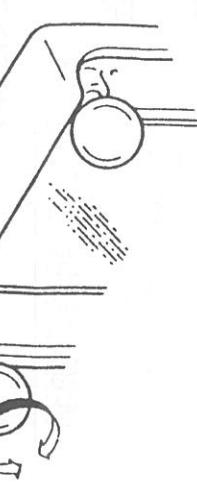


図 6

- 照明(白熱球)の取付け
- (1)付属品の電球(40W、直径95mm×2個)をソケットに取付けます。



図 7

- 蛍光灯カバーの取付け
- (1)照明器具の周波数は50Hzにセットされています。60Hz地域でのご使用の際にはスイッチを60Hzに切り替えてください。



図 8

- (1)蛍光灯の端のテープは、はがしてください。
- ※輸送中の破損防止を目的としたテープです。



図 4

- (2)①蛍光灯の端のテープは、はがしてください。
- ※60Hz地域でのご使用の際にはスイッチを60Hzに切り替えてください。

施工後の確認

■化粧鏡台本体の確認

- (1)化粧鏡台の取付けねじが十分に締まって、ゆるみがないことを確認します。
- (2)化粧鏡台自体にガタツキ、壁と化粧鏡台とのすき間がないことを確認します。
- (3)電源プラグをコンセントに差し込み、照明スイッチを操作して点灯することを確認します。